

幼い難民に未来を



発行：幼い難民を考える会 〒150 東京都渋谷区広尾4-3-1 TEL 03-499-1226 ●振替口座 東京1-36227



日本に住む外国の人から、「住みにくい」という声をよく聞きます。これは、物価や住宅の問題もありますが、私たちの中にある閉鎖性にも多くの原因がありそうです。

日本に定住したインドシナの人たちにとっても、地域社会が開かれ、温かく受け入れてくれるものであれば、もっと暮らしやすくなるはずで。

今回は、神奈川県相模原市でのいくつかの試みを、地域での取り組み方の一つの例として、ご紹介しましょう。

3年目を迎えた 団地内日本語教室

「はい、これは何ですか？ そう、「ながい」ですね。反対の言葉は？ そう、「みじかい」。この鉛筆とこっちの鉛筆では、どちらが長いですか？」

漢字のカードや、身のまわりの品を使って、日本語の勉強をしているのは、神奈川県相模原市・宮の上団地にある日本語教室。この日は、昼

間のお母さんのクラスが開かれています。広いテーブルでは、4人のお母さん達が、子どもをひざに乗せて勉強中。どうしてもお母さんから離れない子どもだけがここに一緒にいて、ほかの子どもたちは、隣の部屋であずかっています。

小さい机では、こちらも子どもをひざに乗せたお母さんが、1対1で日本語を教わっています。大和定住促進センター（神奈川県大和市）を出て、まだ間がないため、時計の読

み方と、簡単な漢字の勉強をしていました。

この団地に日本語教室ができたのは、3年前の1985年10月。集会室を教室に使っています。自治会が中心になって、日本語教室推進委員会をつくり、子どもたちも、この委員会のメンバーが、交代であずかっているのです。

宮の上団地は4階建て8棟の雇用促進住宅で、230世帯のうち、カンボジア人15世帯、ベトナム人3世帯が住んでいます。相模原市に住む109人（87.9.30現在）のインドシナの

開かれた地域社会をめざして



年々何回かある行事のなかで、一番人気があるのがカルタ大会。今年は約七十人が参加。(撮影・日本語教室推進委員会)

人たちの約72%にあたります。

日本語教室の中心になっている、自治会長の中川文字さんにお話をうかがってみました。まず、日本語教室を開くようになったきっかけから。「1つには、あるお父さんから、日本語を教えてほしいと言われたことですね。それと、自治会の中に日本語のわからない人がいると、ほかの日本人と同じようにできず困ることがあるんです。自治会の会員は、みんな平等じゃないとおかしいですから、日本語のできない人は引っぱり上げて、同じラインに立てるようにしないと、と考えたんです。

でも自治会長をやっているので、日本語教室と両方はとてもできないと言ったんですが、自治会の役員も協力すると約束してくれたので……」

日本語教室は、定住促進センターを出て間もない人から上級日本語の人まで、12クラスに分かれ、36人が参加しています。

教えているのは、会長の中川さんを含めて団地内4人と、主に教職関係の外部の人4人です。この日広いテーブルのほうで教えていたのも、近くの小学校の先生でした。

教材は手づくり。市販の国語の練習帳から、教える内容に合ったページをコピーしたり、ひらがなや漢字のカードをつくったりしています。授業の前に教材をつくるのが大仕事。各クラスのレベルに合わせた教材を用意するのも、中川さんです。

現在、お父さんや、働いているお母さんのための日本語教室は月2回。昼間、家にお母さんのクラスは週1回開かれています。

「本当は、どちらも毎週にしたいのですが、委員や講師の方の負担を考えると、隔週になってしまって……」

お金の種類、数え方、買物のしかた、ゴミの捨てかた、お風呂の入りかた等、生活にまず必要なことを教えながら、日本語の勉強を始めたそうです。

「おにぎりを作ってあげたらとても喜んでくれて、作り方を教えてほしいというので、授業の合い間に料理を教えたり……。そうすると今度は、カンボジアやベトナム料理を作ってもってきてくれるんです。おいしいですね、向こうの料理も。」

生活に即した、興味をひく授業をするのが、いちばんたいへんだとか。同じ団地内にあるとはいえ、1週間に1度の休みの日に集会室に出かけようという気になるには、やはりおもしろい授業でないとは続かないでしょう。

教室についてくる子どもには、おやつが配られるので、団地内の放送で、「日本語教室を始めます」と流すと、まっ先に来るのが子どもたち。そのあとから、お母さんたちが、おしゃべりしながら来る、という光景も見られるといいます。

この日本語教室は、3年間の約束で始めたそうです。今年の10月で3

インドシナの子どものびのび育つ保育園

花、山、光、風、こんなクラス名をつけているのは、相模原市にある、むくどり保育園です。定員90人の保育園に、カンボジアの子12人、ラオスの子1人がいます。

園長の朝比奈秀行さんは、10年以上前にベトナムにいたことがあり、その後、難民キャンプへも何回か行った経験があるとか。そんな朝比奈さんにとって、「難民の子を受け入れるのは当たり前」のことだったようです。

「難民の人からは、本当は保育料をとりたくないんです。国がもつと援助してもいいと思うんですよ。お母さんが仕事をやめたときでも、市では、子どもを保育園に入れる理由はないと判断するけど、子どもにとっては、保育園に入る必要があるんです。小さいうちから日本人の間に入れば、それだけ早く、日本に慣れるわけですから。」

5歳から入ってきたカンボジアの子は、ほとんど何もしゃべらなかつたので、ほくが1対1で、ずつと付き合っ言葉をお教えたんです。うちでは、個別保育の時間が

撮影・むくどり保育園



あるので、こんなこともできるんですが……。

おかあさんたちは、行事にはよく参加しています。園でも、春秋2回の運動会、親子遠足など、親も参加できる行事を増やすようにしています。」

相模原市は、理解ある保育園にも恵まれているようです。



自治会長の中川さん

周年、来年、3月の年度末で、一つの区切りとなります。そのあとは、日本語が上達したベトナムやカンボジアの人が教える、というのが一つの案として出ているそうです。

もしこの案が実現し、インドシナの人たちの手で日本語教室が運営され、必要な部分に日本人がかかわるという形にできれば、理想的だと思います。

そして、このような日本語教室がほかの団地でも開かれるようになれば、言葉の不自由を感じている人にとって、大きな救いになるでしょう。

隣人としての 手助けを

団地に住まず、バラバラに住んでいるインドシナの人たちへの地域としてのかかわりは、まだ始まったばかり。直接のきっかけは、神奈川県秦野市で昨年2月に起きた、カンボジア人が妻と子どもを殺害した、不幸な事件です。

“インドシナ難民の人々を支援する相模原市民グループ”「葦の会」は、昨年8月に誕生しています。会の代表・世古敬子さんは、ISS（社会福祉法人・日本国際社会事業団）の難民定住相談員でもあります。

「あの事件を知って、相模原市にも同じように孤獨な一家がいるのではないかと思います、居ても立ってもいら

だれでも使える 自由空間

相模原市取材するなかで、うれしい場所を発見しました。ちよつとした集まりや、会議などに自由に使える、約23坪の部屋です。これは、JR横浜線淵野辺駅から歩いて10分ほどにある、オリバーという不動産屋さんが、コミュニティ・サロンとして開放しているものです。「利益を地域へ還元するためのア

れなくなって」まわりの人に呼びかけてつくったそうです。

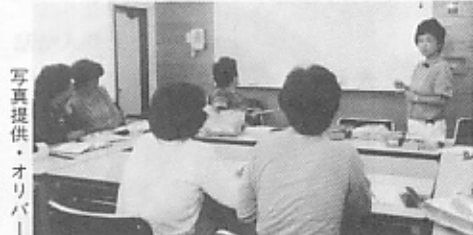
「私たちは、文化や生活習慣の異なる人々と、生活の場を分かちあっていく術を、学んでいかなければならない時代に立たされているのではないかと思います。日本に定住しているインドシナの人々とのかかわりは、支える側と、支えられる側の関係でスタートするかもしれません。でも、このかかわりを通して、私たちが目を開かされ、真の国際人になるための、またとないチャンスを与えられたような気がしています。

インドシナの人たちの生活が、社会的にも、経済的にも、一日も早く基盤を確立して、私たちと同等の市民権を得ることができ、隣人としてともに生きていけるようになったらと願っています。」

「葦の会」の活動の柱は、①インドシナの人々が、日本で生活する上での不便を解消し、情報の不足を補うための支援。②地域の人々の理解、協力を得るための公的機関、企業に対する働きかけ。③インドシナの人々との交流、の3本です。

具体的には、病院への付き添い、各種書類の作成の手伝い、日本語の学習、住宅さがしなど、できるところから手がけたいと、世古さんは話しています。

「市役所や福祉事務所、職業安定所、



写真提供・オリバー
「アイデア」とか。なかなかユニークな不動産屋さんで、タウン紙も月1回発行しています。

お近くの会員の方、ご利用なさってはいかがですか？ 使用申し込みは、0427-55-5655オリバーへ。

病院など、日本人側の受け皿がしっかりしていれば、日本人と一緒にいていく必要もなくなるんです。わかりやすい言葉で、ゆっくり話して対応してくれれば、ほとんどわかると思うんです。その意味で、公的機関への働きかけが重要でしょうね。

でも、まだ現実には、私が「葦の会」としてついて行った場合と、公的に認められているISSとして行った場合でさえ、まったく対応が違います。残念ながら……。

緊急電話で、「陣痛が5分おきになったのに、病院が入院してもいいと言ってくれない」とかかってきたことがあります。病院に電話をするのに、民間のボランティア団体と名のもって駄目だと思って、ISSの名前を出して事情をきくと、「その人はお金が払えるのか」と言うのです。もし支払えなくても、児童福祉法によって、入院助産が受けられることを説明して、入院できました。その30分後に、生まれたそうです。」

日本の中での民間のボランティア団体の社会的地位の低さ、日本人側の理解不足……いろいろ考えさせられる話です。

「大きな企業も、もっとインドシナの人たちを受け入れて、人材を育てることをしてもいいと思うんです。アジアの国々で、かなりの利潤をあげている企業もあるんですから。



「葦の会」の世古さん

自分の国で、知的な仕事をしている人が、日本で肉体労働や単純労働しかできなくて、精神的に落ち込んでしまうケースがよくあります。英語やフランス語ができるのに生かさない人……。もっと日本が、彼らの能力や可能性を發揮できるような社会になれればいいんですが……」

活動を始めてみると、その範囲は相模原市だけにとどまりません。世古さんが思ったのは、「遠くからわざわざ出かけていくより、地元で協力者を見つけたほうがよい」ということだと言います。そのために、現在は「動ける人が、動ける所で、動ける時に」かかわれるようなネットワークづくりをめざしています。

現在会員は10人。うち2人が男性で、8人が女性。いずれも活動的な方たちで、ほかの団体、方面でも活躍しています。ですから、それぞれの人々が核となって、新たな枝を広げていくことができるのではと、世古さんは期待しています。

9月からは、毎月1回、インドシナの歴史や文化を学ぶ勉強会を持っています。インドシナの人とかかわるなら、彼らの国の背景を知ってほしいと、あるカンボジア人に指摘されたのがきっかけだそうです。「葦の会」の名前は、「考える葦」からとっていますが、同時に、出会う相談や問題に足を使って、誠実にかかわっていくという気持ちがかめられています。

国際交流は 内なる国際化から

一方、直接的なインドシナの人たちのかかわりはまだ少ないのですが、市民の国際化のために活動している団体もあります。

それは、相模原市国際交流協会です。7年前、相模原市が50万都市になったのを機に、姉妹都市を持ち、国際交流をはかりたいという、市側の要請から設立されました。当時、会長は相模原市長でしたが、5年前から純粋な民間団体として再スタート。市民自身の自主的活動をすすめています。

世界各国から招いた学生、社会人の会員等の家庭への受け入れ、講演会、日米料理コンテスト等で、「国際交流」を実践しています。

その国際交流も、共におしゃべりや食事を楽しむことから、在日インドシナの人々、中国からの帰国者、留学生などの生活相談にのることまで、年々幅広くなっているようです。異文化に触れる楽しみだけではなく、もう少し深い部分で理解し、かかわろうという姿勢がうかがえます。

この協会の理事長である大野^{つとむ}さんは、宮の上団地の日本語教室の上級クラスや、葦の会の勉強会で講師もつとめています。上級日本語クラスでは、外国為替の話等を、葦の会では、インドシナの歴史をと、忙しいなか、とび回っています。



インドシナの人たちと日本人のサッカー交流試合（撮影・相模原市国際交流協会）

昨年暮には、大野さんは、タイにあるパナニコムキャンプ（第三国への定住が決まった人の一時滞在施設とベトナム難民の収容施設）を訪ねています。

外国と行き来するだけではなく、異なる価値観・習慣をもつ文化を理解する「内なる国際化」があって初めて「開かれた地域社会」ができるというのが大野さんの持論です。

相模原市国際交流協会が、市内に住むインドシナの人々への働きかけを本格化するのも、間近ではないかと期待されます。



相模原市国際交流協会の大野さん

私たち「幼い難民を考える会」では、今年、地域の人とのネットワークづくりを手がける予定です。幸い、神奈川県でも、団体間のネットワークをつくろうという動きがありますので、密な連絡をとりながら、地域へのかかわりをもう一步進めたいと思っています。

インドシナ豆事典

調味料

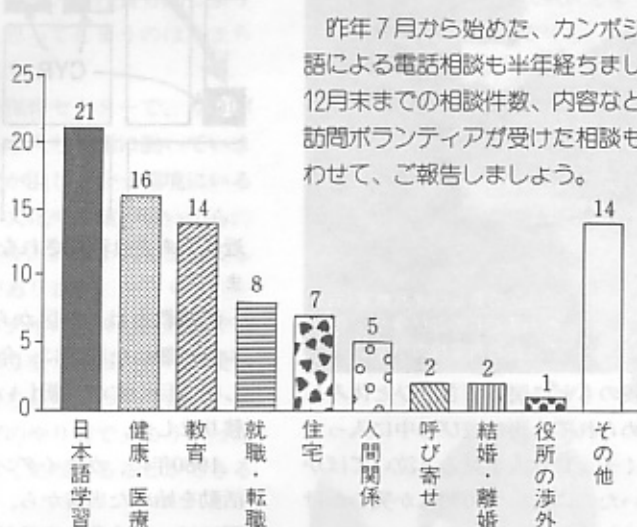
インドシナの代表的な調味料といえば、魚やエビに塩を加え、アミノ酸発酵させた魚^{とじょう}醤でしよう。

カンボジアでは、トットウライ、魚の水と呼んでいます。ベトナムではニョクマム、ラオスでは、ナンパーといいます。日本の秋田地方にある「しょつつる」に似ているという人もいますが、魚から作った醤油と違っていいでしょう。

この魚醤をつくるとき、底に、ペースト状、あるいはそのままの形の塩辛ができます。これをおかずにご飯を食べるとするのが、一般的なようです。



電話相談・訪問相談から



昨年7月から始めた、カンボジア語による電話相談も半年経ちました。12月末までの相談件数、内容などを訪問ボランティアが受けた相談も合わせて、ご報告しましょう。

昨年5月から12月までに受けた相談件数は90件。相談の中で最も多かったのが、日本語の学習に関するもの21件でした。その内容は、日本語の先生を探してほしい（全体の80%）、日本語の教材を手に入れたいなどです。1月現在、要望のあった家庭のうち、半数以上の家庭をCYRの会員および関係者が訪問しています。ほかの家庭についても、訪問できる人を探しているところです。

2番目に多かった健康・医療の相談16件のうち、病院がわからないので紹介してほしいが5件。地域の医師や保健所などに連絡をとり、病院を紹介しました。電話相談では、自分の病気や家族の入院で不安なので、話を聞いてほしい、が4件。そのほか、病院へ付き添ってほしい、保険証のことを教えてほしいなどでした。

教育についての相談14件のうち8件は、子どもが、学校の勉強についていけないのでみてほしい、というもので、うち3件の家庭を訪ねています。保育園や学校からのプリントを、定期的に見ている訪問ボランティアもいます。

住宅の相談7件は、家賃の安い雇用促進住宅に入りたいという希望が多いのですが、東京および近県の雇用促進住宅は、ほとんど満室で、入居はむずかしくなっています。築20年以上の住宅の場合、2Kと狭いので、2戸、3戸を1戸にする改築がすすんでいることもあり、昨年の秋からは、よほど空きがない限り、民間のアパートが高いから入居したいという人を受け入れなくなっています。

人間関係の相談は、同国人同士でけんかをした、話相手になってほしい、遊びに来てほしいという内容が、電話で寄せられました。

その他の相談には、友人の住所を知りたい、出かけたので交通手段が知りたい、結婚式の準備を手伝ってほしいなどが含まれています。

あるケース 精神病院への 入院志願

暮もおしつまったある日。大和定住促進センターから、協力要請の電

話が入りました。

最近、ケンカが絶えないという夫婦。その日は特に険悪で、妻と子ども達4人は、こわがって隣家に避難している。夜、泊まる所がないと、母子の身が心配だ。夫は2年ほど前から精神科にかかっており、生活保護を受けている。時に刃物を持ち出すことがある、ということでした。

第二のブイムン事件^{*}になっては、との危惧と、カンボジア人同士での解決を期待し、CYRと、カンボジアカルチャークラブ（CCC）の電話相談に連絡が入ったのです。

夫婦と、センター所長との話合いの折、夫は精神病院に入院したいと言ったそうです。

しかし、その夜は、CCCの相談員の家に、夫を泊めることになり、いろいろ話した結果、「入院はやめた」と逆転。

「カンボジアにいる時なら、冷静に落ち着くまで、親許や親せきの家にしばらくいることができるのに、日本では戻る所もない。精神病院に入りたと言ったのは、戻る場所がなかったからだ」と、その相談員は説明してくれました。

住まいにも、精神的にもゆとりがあったカンボジアでの生活から、人を泊めたくてもあいている部屋もなく、生活に追われている日本の生活へ。急激な生活の変化に加えて、まったく言葉も、習慣も、気候も違う環境。精神バランスをくずさないでいられるほうが、むしろ不思議な気がします。

今回、非常に大きな救いは、隣家の日本人が、とても親切な方だったこと。明け方近くまで、奥さんの話し相手になってくれたそうです。

その後この夫婦は、CYRの電話相談員のソワンさんも何度か訪ね、落ち着いています。根本的な解決にはまだまだ時間がかかりそうですが、

*ブイムン事件＝昨年2月、神奈川県栗野市で起きたカンボジア人が妻を殺害した事件。

希望の家レポート



15区の新しい洋裁教室(右)と、子どもの遊び場としてつくった八角屋根の小屋。

●おやつ再開を喜ぶ子ども(8月)

5月から中断していた、ビスケットとミルクのおやつが再開されました。ビスケットは、オーストラリア政府からの寄付です。

ビスケットが久しぶりに配られた日の子どもたちの表情は——。いつまでもビスケットを持っていて食べずに見ている子、チビチビ食べる子、ポケットにしまって大事に抑えている子、様々な喜びようを見せてくれました。

おやつがなくなって、一時減っていた子どもの数も、おやつ再開と共に急増。中には、学校をさぼって来る小学生までいるので、おやつ時は小学生を外に出すようにしています。保育園の子どもにも、おやつ時間だけ来る子が多いので、おやつ以上に楽しい時間が送れるよう、保育に創意工夫の必要があるところです。

●織物スタッフの子どもたち

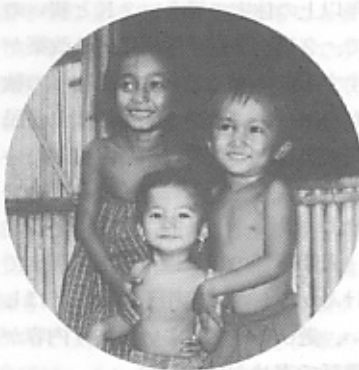
織物教室で働く母親たちは、ほとんどの人が子どもを連れてきています。その子どもたちの母親との触れ合いや成長していく姿には、ほほえましいものがあります。

遠くから、ほかの子どもが遊ぶ姿を母親のそばで見ていることしかできなかったのに、自分も仲間に加われるほどに成長した子。遊びに疲れたり、転んですりむいたりすると、

母親のもとに戻ってきてひと休みし、慰められて、再び遊びの中に入っていく子。日本人を見ると泣いてばかりいたのに、いつの間にか笑いかけてくれるようになった子……。

子どもたちの成長していく姿を見るのは、日本人スタッフにとってもうれしいことです。

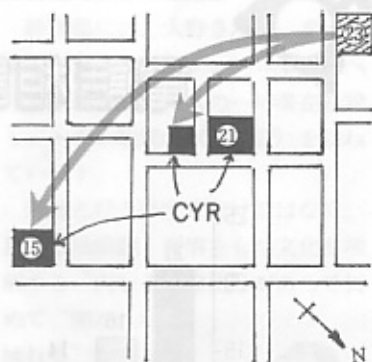
▼少し前まで日本人を見ると泣いていた兄弟も、笑いかけるようになった。



●23区の保育センター移転(10月)

カオイダキャンブの西はずれにあった23区の保育センターが、人口減少に伴い、住居地区より外側になってしまったこと、老朽化して修理不可能なことから、キャンブの内側へ移転しました。

23区にあったのは、保育園と洋裁教室です。引越し先は、保育園が21区の保育園の隣にある建物。前号で大きい子どもの遊び場として使っていることを紹介した建物ですが、最



近は、あまり利用されなくなっていました。

洋裁教室は、21区から500メートルほど離れた15区に、今までより少し小さ目ですが、新しい建物を建て、移りました。

1980年に、カオイダンでCYRが活動を始めた当時から、23区の保育園には、たくさん子どもたちが、通ってきました。世界中に散って行った子どもたちもいます。また、キャンプ内で大きくなっていった子どももたくさんいます。先日、初めてキャンプに入ったときに会った子どもにも偶然会いました。もう中学生くらいの年齢になっているのを見て、7年という年月の長さや早さを実感しました。

●水まきの遊具でできあがる(11月)

子どもが庭の水まきのときに使える、桶とひしゃくができてあがりしました。桶はミルクの空缶の上部を5センチくらい切り取り、針金で取手をつけ、手で持つ部分に竹を通しました。この桶の大きさは3~4歳の子ども身長に合わせて考えたものです。ひしゃくは竹製。

子どもたちは、得意気に、何度も水場と花壇の間を往復しながら、神妙な面持ちで、花に水をあげています。



タイの人々の暮らし方は、西洋の人々の目からは、簡素でのんきなものに見えるでしょう。でも、だからと言って、タイ人の性質も同じようなものだと思ってしまうのは、まちがっています。

私は、今保育センターで、カンボジア人、日本人と一緒に働いています。異文化が混じり合う環境にいると、時々、文化や言葉の違いから、誤解や怒りや、欲求不満を生んでしまうことがあります。

しかし、タイの人々は、人種や宗教にかかわらず、おたがいに愛し合い、分かち合い、わかり合う、というブツクのやり方で、こういった問題をうまく処理することができるのです。

タイ人は、すぐに異なる文化に溶けこんでしまって、自分たちの文化を失くしたり、忘れたりすることさえある、とよく言われます。でも私たちは、過去に持っていた文化を守り、未来に向けて改善していこうと

するのと同様に、他の文化も受け入れ、尊重しているのです。

「マイペンライ」という言葉と、ほほ笑みは、こんなタイ人気質をよく表わしているかもしれません。

「マイペンライ」は、いろいろな意味で使われます。「どういたしまして」「いいよ」「大丈夫」「気にしないで」「構いませんよ」……。

「あなたのお望みのようにします」と

タイ人の目

マイペンライ



いう、皮肉っぽい気持ちを表すこともあります。話し手が何を伝えたいかによって、どうにでも変わります。

ほほ笑みも、「マイペンライ」も、何か意味のあるときも、何の意味もないときもあるのです。よく言えば、柔軟なのでしょう。

タイは、外国、とくに西洋の国々からの影響を受け続けています。しかし私たちは、タイ人であることをとて誇りに思っているのです。

日本人とタイ人を、外見で区別するのはむずかしいことです。でも、日常生活や、個人的信条、自尊心、他人への思いやりなどをよく見ていれば、両者の違いは明らかです。

タイは、ほほ笑みの国、歴史的な遺産がたくさんある、美しい国として知られています。もしあなたが、実際にタイを訪れたら、美しい国だと思っただけでなく、きっとたくさんの笑顔をおみやげに持って帰ることができるでしょう。

パニダ・クラナロング

新たに約7000人に
第三国定住面接資格



今まで、食糧の配給を受ける資格しかなかったRC（配給カード）保持者約七千人に、昨年十二月から、第三国の定住の申し込み資格が与えられました。

RC保持者は、一九八四年八月から、八五年九月までに、カオイゲンキャンプに到着した人々です。

もっと以前から、長い人では八年間もキャンプにいるKD（カオイゲン）カード保持者は、約一万四千人、第三国へ定住できそうな人の多くは、すでにキャンプを出てしまっているため、今回の措置がとられたものと思われまます。

一月から、これらのKDカード、およびRC保持者を対象に、カナダ、オーストラリア、フランス、アメリカ、オランダ、ニュージーランドなどの定住調査が行なわれています。

かおひだんかわら版

日本からの調査団は、三月に行く予定です。

タイ国王の誕生祝い

昨年の十二月五日は、タイのプミポン国王の六十回目の誕生日。タイ全土で、お祝いの行事が行なわれました。

カオイゲンキャンプの中でも、十一月下旬から、国王の写真やタイの国旗があちこちに飾られ、十二月四日から六日の三日間にわたり、記念式典や催し物が開かれました。

キャンプの人たちも、カンボジアの伝統的な踊りや、演劇などを楽しみ、お祭り気分を味わっていました。お寺は、お供え物を持ってお参りする人で、にぎわっていました。寺の前の広場には、かき氷、砂糖きび、揚げ菓子などの「屋台」が、いつもに増してにぎやかに店開きし、子どもたちも、楽しそうに、のぞきまわっていました。



タイの「子供財団」を訪ねて

去る9月、タイにいるC.Y.R.スタッフ、タイの民間団体「子供財団」を訪ねました。その報告をシビカ・ブラコブサンティスックにしてもらいましょう。

この財団は、1979年に、子どもの権利と健康を守り、よりよい教育を施すこと等を目的として設立されました。現在、ボランティアを含め60人のスタッフが働いており、スラム、工事現場の労働者、貧しい家庭や崩壊した家庭の子どもの対象にしたプロジェクト、移動図書館の活動などを行なっています。

私たちはそのうち、栄養不良の子どものためのプロジェクトと、工事現場の労働者の子どものための移動子どもセンターを訪ねました。

8

タイでは、5歳以下の子どものうち約14パーセントが栄養失調です。このプロジェクトでは、軽い栄養失調の場合は、母親にミルクと補助食

を与えて栄養指導を、重度の場合は、回復するまで看護婦が世話をしています。このほか、スラムに住む子どもの保育園の運営、大きな子どものための技術訓練も行なわれています。

移動子どもセンターは、建設労働者の子どものための学校で、工事現場の移動と共に動いています。この目的は、教育だけではなく、愛情が不足している子どもに、安心感と保護を与えることだと言います。

工事が終わると、センターを閉めなければならないので、子どもたちが勉強を続けられるように、最近、常設センターをつくったということです。

カオイダンキャンプと比較してみると、状況が違うだけで、問題点はほとんど同じだと思われま。カオイダンの人々は、食糧、水、衣服、家、医療、教育などのすべてを援助で受けていますが、将来を選んだり、決めたりすることはできません。タイの貧しい人々は、将来について考えたり、選ぶことはできますが、目指すゴールまではたどり着くことが



できません。必死に働いても、生活していくのがやっとです。

カオイダンでも、タイでも、親が教育を受けていなかったり、貧しいと、子どもの成長、栄養についての知識も少なく、理解しようとするゆとりもないために、子どもが栄養不良になっています。栄養が欠けているばかりでなく、子どもは、愛情にも飢えています。これは、カオイダンでは、親が戦争のために無気力になっていることに、タイでは、親が必死に働かなくてはならないことに原因があります。

このような問題を解決する方法は、細かい点では、環境によって異なるでしょう。しかし、私たち大人としては、人々と協力して、子どもを助ける最も適切な方法をさがす義務があると思いました。

イギリスで40年以上の歴史を持つ民間の海外援助団体 OXFAM (オックスフォード飢餓救援委員会) のトニー・ジャクソン氏が、タイにいるカンボジア難民についての報告書を昨年7月出しました。その中で、次のような緊急行動を呼びかけています。

●国境の避難民の法的地位を確立することが急務である。カンボジアへの帰国を望む人々も多いので、安全で秩序ある帰国を保証するために、外交的な調整が必要であろう。

●避難民の法的地位が確立されるまでは、彼らを24時間保護する制度を UNHCR (国連難民高等弁務官事務所) が中心となって発足させることが大切である。

●恒久的な解決までには時間がかかるので、避難地を、危険な国境地域

「死を待つのみ？」

タイ・カンボジア国境にいる避難民に緊急措置を！

—OXFAMの報告より

から安全な場所へ移したほうがよい。

●援助が適切に使われているかどうか、定期的に監視すべきである。

●15万人いる15歳以下の子どもたちの将来を考えると、教育制度の整備が緊急に望まれる。現在は、小学校教育のみ行なわれている。

●国連が民主カンボジアを認めているために、何十万もの避難民が人質のように生活している国境に、各国の援助が集まっている。

それと同時に、カンボジア国内は、承認された政府でないために、何の公的な開発援助を受けられない。

この外交的な難局を打開する方法の一つとして、カンボジアの国連代表権を空席にすることが考えられる。●こうした政治的行き止まりの状況において、難民の声を代弁し得る民間ボランティア団体の果たす役割は重要である。民間団体の国際委員会である ICVA が、こうした国境の事態に関して討議する国際会議を開き、国連や各国政府に対し、問題解決の働きかけをすることを勧める。

国境地帯の人々は、いつ砲弾がとんでくるかわからない不安と、自由の制限、そして何より将来に対しての不安と絶望を抱いている。それらが精神的圧迫となって、彼らは、ただ死ぬのを待っているだけのようにみえる。

カンボジアで出会った

子どもたち

岡田知子

昨年の9月、私はカンボジアの首都プノンベンを訪れました。1泊2日の大変短い滞在だったので、人々の日常生活をよく知ることはできませんでした。しかし子どもたちは外国人がたくさんいることに大変興味を示して、私たちはどこへ行っても彼らの熱い視線を受けたのです。

日本の中古バスに揺られて「虐殺の村」として観光客に公開されている郊外のチュンアイク村をまず見学しました。途中、やせ細った牛を木の枝で追っている男の子を見かけました。村には白骨か山のように積み、ポルポト時代の悲惨さを物語っています。いつのまにか村の子ども

たちが集まって来て、じっとこちらを見ていました。髪は栄養失調のためか茶色や金色になり、裸足で穴のあいた服を着ていました。中にはごさのようなものを肩からかけている子もいます。バスが珍しいのか触ったりたたいたりしていました。

次に子どもたちに出会ったのは、高級レストランの前でした。15歳ぐらいの女の子が持ち運びのできるガラスケースにたばこやマッチを並べて売っています。彼女のまわりには、5、6歳の子どもたちがもっと小さい弟や妹を抱いて、何をやるわけでもなく、黙って立っています。カメラを向けると恥ずかしがって、バラ

バラと逃げてしまいますが、またすぐ戻ってきます。大きな黒い目をクリクリさせて、私たち外国人を、飽くことなく見ているようでした。

その晩、私たちはカンボジア革命青年団（政府機関のボーイ・ガール・スカウトのようなもの）との交流会に参加しました。小学校1年生ぐらいから15歳ぐらいまでの子どもたちが、かわいらしい紺の制服を着て帽子をかぶり、白いハイソックスをはいて日本の歌をうたってくれたのはとても印象的でした。その後一緒に踊ったロック調の音楽に、みんなリズム感よくのっていました。

国内、国境そして第三国と、カンボジアの子どもたちは同じ民族でありながら、いろいろな国で暮らしています。

今回カンボジア国内の子どもたちを見て、一体どこで生きていくのが彼らにとって一番幸せなのだろうか、と深く考えさせられました。



▲栄養失調のために髪の毛が赤い子ども、破れた服の子どもも見かけた。

▼プノンベン市の中心近くにある市場。



▲町のあちこちにスローガンが掲げられている。



▲国立芸術団で伝統舞踊を習っている生徒。

▼プノンベンの名前は、ここから付いたといわれるベン夫人の丘（ワットブノム）



CYRの活動から 学んだこと

京都市
左京区



東 あかね

「人間の大地」を読んで、CYRの活動を知り、カオイダン保育センターのビデオを見せていただきました。

おとなのための洋裁、織物教室、木工室が子どもたちの保育園と向いあわせになっていて、母親からも子どもからもお互いの様子がわかるようになっていきました。子どもたちの衣服や、教材、おもちゃが作られ、それを子どもたちが使い、作り方をまねていきます。

10

7歳までの子どもは模倣によって、身体のいろいろな機能や感覚を発達させていくので、その模倣にふさわしいものを、まわりに置いてやるのが大切だと書いてある本がありました。そのとおりのことが、なされています。自由も物質も欠乏しているキャンプで、ゆき届いた配慮のもとに、子どもたちが育っていくための環境づくりがうまく、なされていることに、深い感動を覚えました。

私事にわたり恐縮ですが、4歳になる私の息子は1日9時間、保育園で暮らしています。「子どものあるがままを受け入れる、自由にのびのびとした保育」がモットーの園で、園でのことは親は知らなくてもよいと言われ、この9時間、子どもがどんな風に暮らしているのか、ほとんどわかりませんし、もちろん、子どもの方も親の様子を知るよしありません。園には、積木、ブロック、絵本、紙芝居などが豊富にあります。子どもがまねる対象とする「生活」

はあるのでしょうか。短い家庭生活もマンションでは、スイッチを押すことを覚えるくらい。

ビデオを見て、自由があって、物質も豊かなこの日本で、子どもの成長のための環境づくりを、全くおさなりにしてきた自分に気づくことができました。CYRの活動から多くのことを学ばせてもらったことに感謝すると共に、今後の活動を応援してゆきたいと思います。

交流のむずかしさ 痛感した旅

神奈川県
川崎市



伊藤静江

昨春秋、私はインドネシアで三週間を過ごしてきました。建設会社勤務の夫は半年前から単身赴任しています。一か所に留って、普通の人々の生活を見、できれば言葉も覚えたいと思い、私は夫の宿舎に近いホテルのコテージに滞在して、日本語の少しわかる女性に同行してもらいました。

どこでも乗り降りできるバスで、市場やスーパーマーケットへ買物に出かけ、日帰りのできる範囲で毎日のようにいろいろな所へ出かけて行きました。日本人女性が珍しい所なので、ジロジロと穴のあくほど見られるのには閉口しましたが、人なつっこいインドネシアの人々には好感を持ちました。

ラジオからは、日本製調味料のCMソングが流れ、毎日乗るミニバスも日本車、衣料品も日本製は高級品です。彼等はアラの神を信じるように、日本の製品は何でもよいと

思っていて、日本はあこがれの国、日本へ行くことが夢だと言っていました。が、もし来日して私たち庶民の現実の生活を見たら何と言うだろう、と考えてしまいました。

私の目には、朝のお祈りで一日が始まり、時間の上に乗っかって生活している彼等の方が、時間の間を走り抜けている忙しい私たちよりずっと自然に見えました。イスラム教の世界観、人生観は宗教の中で生活している彼等独特のもので、いっしょに食事をしても金持ちが払って当り前。自分たち貧しい者は金持ちからもらって当り前。失業中は稼ぎのある者に養ってもらって当り前。個人的には良い人なのですが、常にこちらが与えていなければ交際が続かないというのでは、私でなくても考えてしまうのではないのでしょうか。これが国と国との交流となると、もっと複雑になり、各々がどの辺で折り合いをつけるのかは外交手腕次第、というのでしょうか。価値観の違う者同士が、相手を理解しながら、なお自分の主張を通すのは、私が考えているより、ずっとずっとむずかしいことなのではないでしょうか。

原稿大募集!!

会員登場に原稿をお寄せください。すすめたい本、現在やっていること、仲間の募集、勉強していること、疑問に思っていること、会への希望その他何でも。

横書き、16字詰で書いていただくと助かります。字数は600~800字程度。

お待ちしております!!

ひまわり コーナー

8月から10月までのひまわりは、3回にわたって生活の中の無駄とゴミについて、考えてみました。

最近では手軽に使い捨てできるものが安く手に入るようになり、私たちの毎日の暮らしはとて便利になりました。でも、この便利さの裏では、増え続けるゴミが大きな問題となつてつづつあります。

私たちは、第1回の「相模原市のゴミ処理場を見学して」で、自治体がゴミをどう処理しているかを調べてみて、近代的な設備の整った焼却場の処理能力もほぼ限界に来ていることを知りました。やはり、ゴミの

減量を考える必要があります。

その意味で参考となるのは、第3回「川口市のゴミ・リサイクル運動」で調べたことです。川口市では、都市化が進むにつれて増えたゴミが財政を圧迫するようになったので、市政モニター会議を開いて話し合った結果、資源回収運動に乗り出すことになりました。

川口方式の特徴は、ビン・缶・紙というゴミの仕分けをしっかりと実行したこと、市と市民と業者という3者がよく協力したことの2点です。この運動は、ゴミ処理費用を減らしたばかりでなく、利益を市民に還元できる、というところまで成功しました。

名刺以上の大きさの紙は、リサイクルの波に乗せることができるそうです。みなさんの近くにもリサイクルの動きはありませんか？ また、捨てる物を減らすためには、自分に

とって本当に必要な物とそうでない物を見きわめることも必要です。

割りばしやティッシュペーパーなどを、つつい使いすぎではありませんか。スーパーで買い物をする度に、受けとるビニール袋、便利だけれどなくてはならないものでしょうか。豊かな生活というのは、単に物がたくさんあることではないはず。もう一度、私たちの身の回りを見直して、わずかでもゴミの減量を実行していきたいと思います。

(記/上田広美)

ひまわりは、会員有志の自主的な勉強会・交流会のグループです。これからの企画を一緒に考えてくださる方、当日お手伝いをしてくださる方をさがしています。事務局までご連絡ください。

ひまわりは、原則として毎月第3土曜日の午後2時～4時、事務所で開いています。

竹の子通信

くふう狩りとゲームで交流

10月11日、私たちは大阪の郊外へぶどう狩りに行きました。ベトナムの人たちは、大阪の八尾市に住む20数人で子どもたちが多く、そしてその母親と、若い男性もいました。日本人は、大阪周辺に住む5人ぐらいでした。

ぶどう園に入って、ぶどうを食べた後、大阪市大に学ぶベトナム人青年のファン・タム・フンさんの通訳で、みんなで輪になりゲー

ムがはじまりました。ちょっと内容を紹介しますと、まず、向き合っただけでジャンケンをして(ベトナムではジャンケンを「イージャン」というのです。私にはそう聞こえました。)勝つと相手の頭をオモチャのトンカチで思いっきり……。負けた人はブリキのフタでそれを防ぐのです。よくテレビでしていますね。周りの人たちはここに、本人たちは真剣そのもの、そのコントラストがおかしいんです。また、ジェスチャーゲーム

では、3人1組になり、あてられたチームが、あらかじめ決めた動作3種類のどれかを、とっさにします。急にあてられて、あわてて変な動作をして、そのたびに歓声が上がります。

した。言葉が通じなくても1つになれる、ゲームの素晴らしさですね。ぶどう棚の下で私たちが一番にぎやかなグループでした。そして、子どもたちの目が輝いていたことが印象的でした。

日本の社会に入って来る外国人にとってのひとつの壁は言葉ですが、このように言葉以外の手段で互いに打ちとけることによって、言葉の壁もより越えやすくなるのではないかと思います。

このような行事と一緒に参加することは、何よりも互いに、より理解し合うためのきっかけになるし、それは、日本人、難民などの別なく、人が共に支え合ってゆく社会への第一歩になるかも知れません。

この日はあいにくの曇り空でしたが、とても輝いていた1日でした。

(記/奥山卓司)



ご寄付 いただいた方々

1987年9月～12月 (敬称略)

北海道

山鼻カトリック教会 (札幌市)
 婦山ひとみ (〃)
 小川 ヨシ (北見市)
 鍛冶 睦美 (士別市)
 小山田 彰 (古宇郡)

青森県

弘前学院聖愛高等学校 (弘前市)
 白石 富子 (〃)

岩手県

佐藤 重幸 (岩手郡)

福島県

藤田 侑子 (二本松市)

12 茨城県

平戸 昌子 (水戸市)
 関口 博美 (牛久市)
 佐藤 生子 (北茨城市)
 土谷美知子 (稲敷郡)
 高萩シズ子 (〃)
 松添仁・和美・郁夫・卓夫 (つくば市)

栃木県

須永 知子 (佐野市)
 小玉 泰子 (芳賀郡)

群馬県

藤田嘉代子 (高崎市)

埼玉県

伊藤 佐行 (春日部市)
 木村 穂子 (川口市)
 関 政弘 (所沢市)
 八重ゆかり (〃)

千葉県

山極 勝子 (千葉市)
 青木智加子 (〃)
 国府台聖愛乳児園職員
 一同 (市川市)
 大寺 康夫 (〃)

米山緋紗子 (柏市)
 篠原 登代 (鎌ヶ谷市)
 青木 照子 (流山市)
 江戸川台子供の家 (〃)

服部 三郎 (松戸市)
 浜谷きみ子 (四街道市)

東京都

うめだ子どもの家 (足立区)
 山極小枝子 (〃)
 井ノ部百合子 (荏川区)
 根本 晶子 (板橋区)
 鈴木 重子 (大田区)
 三好 勝 (〃)
 山口 和子 (〃)
 仁科 豊子 (〃)
 粒良 京子 (葛飾区)
 国保 征子 (北区)
 大竹れい子 (江東区)
 菊池 広美 (品川区)
 宇都宮家族 (〃)
 小林 治子 (〃)
 カトリック聖心特女
 修道会 (〃)
 田代 泰子 (渋谷区)
 田尻 陽子 (〃)
 床次 八重 (〃)
 中村 義子 (〃)
 澤 恵美 (〃)
 星田 トヨ (〃)
 毛利 泰子 (〃)
 坂本 憲子 (〃)
 尾平佳津江 (〃)
 湯川れい子 (新宿区)
 デイビッドワインパーク (〃)
 モンテッソーリ御苑
 こどもの家 (〃)
 糺沢 知子 (新宿区)
 高島 純子 (杉並区)
 松浪 美子 (〃)
 佐藤 澄子 (〃)
 富樫 紀子 (〃)
 中條 一夫 (〃)

小口 登 (杉並区)
 庄司百合以 (〃)
 原田由紀枝 (〃)
 真愛幼稚園 (世田谷区)

池田透・知嘉子 (〃)
 関口 晴美 (〃)
 笠原 泰 (〃)

大滝 弘子 (〃)
 佐藤 和子 (〃)
 小林智恵子 (〃)
 太田 臈子 (〃)
 三保 元 (〃)

日本キリスト教団
 松沢教会の光グループ (〃)

山路 圭 (中央区)
 津賀都留子 (〃)
 映星学園幼稚園 (千代田区)

東京YWCA専門学校

(〃)

浅井 陽子 (〃)
 鈴木 ヨシ (豊島区)
 小島 礼子 (〃)
 長谷川いく子 (中野区)
 飯沼ふみ子 (〃)
 小倉 松枝 (〃)
 村山みつ子 (〃)
 大鹿 恵子 (練馬区)
 早水ひろみ・輝好 (〃)

聖心女子学院 (港区)
 聖心女子専門学校 (〃)

木村 久子 (〃)
 河野 昌子 (〃)
 太田 和 (〃)
 菊野 正隆 (〃)
 堀 信子 (〃)
 須田 真 (目黒区)

新倉省三・和子 (〃)
 加藤 幸子 (〃)
 山崎 朋子 (〃)
 田所健太郎 (〃)
 原 早苗 (〃)

木庭 菊枝 (秋川市)
 武藤 好子 (立川市)
 渡辺 英子 (調布市)
 本橋 栄 (日野市)

平野 幸子 (〃)
 聖アンナ子どもの家 (町田市)

飯尾美園・香織 (〃)
 渡辺 雅子 (東久留米市)
 小澤佐重喜・貴誉史・和子 (国分寺市)

熊谷ことち (青梅市)
 聖イリナモンテッソーリ
 スクール園児職員母の会 (府中市)

佐久間羊子 (武蔵野市)
 メリノール・シスターズ (〃)

芝野 雅一 (八丈島)

神奈川県

モンテッソーリ美しが丘
 こどもの家 (横浜市)

小久保卓二 (〃)
 若竹 芳子 (〃)
 佐野 克行 (〃)
 田島 敏子 (〃)
 近藤 セキ (〃)
 原 和子 (〃)
 萩原 久子 (〃)
 多田すみ子 (〃)
 平山 知学 (〃)

藤井 節子 (鎌倉市)
 脇 義明 (〃)
 井口 由子 (川崎市)

高橋 良夫 (〃)
 黒木 慶子 (〃)
 伊藤 恵子 (〃)
 森戸 潔 (〃)
 大坪 進 (〃)
 海老沢順子 (〃)

横堀 雅子 (逗子市)
 たんぽぽの会 (茅ヶ崎市)
 福留スミ子 (〃)
 大東加代子 (藤沢市)
 重村 三代 (〃)

小島 正子 (江戸川区)	関口加代子 (品川区)	新宿肢体不自由児父母の 会 (新宿区)	山下志津子 (世田谷区)
石川東世子 (//)	浅野 真理 (//)	久保田淑子 (//)	安藤知代子 (//)
吉田 文子 (//)	ガールスカウト東京 2-202-192育成会 (渋谷区)	水上靴店 (//)	浅井美奈子 (//)
木村八重子 (//)	古川 弘美 (//)	ロンドン靴店 (//)	河村なぎさ (//)
岡 富美子 (大田区)	榎木真知子 (//)	中島 朋子 (//)	中島 博 (//)
平林みどり 麻里子 (//)	大熊 敏夫 (//)	斉藤 隆子 (//)	浅賀 要子 (//)
青木 桂子 (//)	岡見 ハナ (//)	鷲見和佳子 (//)	目黒星美学園奉仕委員会 (//)
荒木啓幸・和子 (//)	聖心会本部修道院 (//)	吉田 礼子 (//)	辰濃 和男 (中央区)
大田 治子 (//)	聖心会第一修道院 (//)	植島 照雄 (//)	榊シンワ (//)
瀧川 嘉子 (//)	聖心会第二修道院 (//)	湯川れい子 (//)	山路 圭 (//)
千葉富貴子 (//)	聖心会第三修道院 (//)	鶴沢 知子 (//)	菊池 明美 (//)
伊藤みちい (//)	宮代会 (//)	鈴木裕紀子 (杉並区)	水野 智子 (//)
平林 一浩 (//)	聖心女子大学寮生 (//)	善福寺子供の家 (//)	高島 哲夫 (千代田区)
西村佳津子 (葛飾区)	聖心インターナショナル スクール (//)	田中 なつ (//)	石原小枝子 (//)
粒良 京子 (//)	小松 信子 (//)	富樫 紀与 (//)	五味ちよ子 (//)
佐藤 秀則 (//)	塩沢 会梨 (//)	今井 敬子 (//)	オンダ靴店 (豊島区)
国保 征子 (北 区)	山崎さよ子 (//)	鳥栖 良子 (//)	原 加賀子 (//)
小林 茂子 (//)	岩本 磯子 (//)	佐藤 澄子 (//)	若林 博子 (//)
矢吹 優子 (//)	有本 杏子 (//)	川崎恵美子 (//)	鈴木 ヨシ (//)
上野 芳江 (//)	谷口 英二 (//)	関口 順子 (//)	川村たか子 (//)
藤原 恭子 (//)	石川やす子・暢子 (//)	伊東 睦子 (世田谷区)	湯原 (//)
对馬恵美子 (//)	会沢レイナ (//)	寺岡 玲子 (//)	小島 礼子 (//)
野端 洋子 (江東区)	小島ミツオ (//)	三井 郁子 (//)	池袋第2小学校PTA (//)
黒田 節子 (//)	尾平佳津江 (//)	伊藤 徳子 (//)	星野幸枝子 (//)
三栄堂(株) (//)	永井 靖子 (//)	民谷 洋子 (//)	中村 義昭 (中野区)
細田千賀子 (//)	澤 恵美 (//)	高原 瑛子 (//)	石田 記子 (//)
長谷部公子 (//)	井上 忠枝 (//)	森田 信子 (//)	星野 トシ (//)
芳野 礼子 (//)	中林 昌子 (//)	柳沢田美恵 (//)	永戸 恭子 (//)
大沢 昭子 (//)	松岡玲子・和子 (//)	栗野美代子 (//)	長谷川い<子 (//)
吉崎美知子 (品川区)	伊東止女子 (//)	小林 敏子 (//)	ARATI (//)
中村医院 (//)	笠原千寿子 (//)	加藤 智子 (//)	旭野 俊之 (//)
鈴木 君代 (//)	ベターホーム協会会員 (//)	大崎みちよ (//)	早水ひろみ (練馬区)
近藤 純子 (//)	篠田 正子 (//)	佐藤 和子 (//)	江藤佳代子 (//)
高田 真理 (//)	永井 祥代 (//)	杉村 佑子 (//)	大谷 節子 (//)
田平 愛子 (//)	長峰 淑子 (//)	上野美代子 (//)	田中悠紀子 (//)
山本 礼子 (//)		宗像 幸子 (//)	後藤今日子 (//)
高橋 静子 (//)		平木大三郎 (//)	見坊 和雄 (//)
新宅 忠子 (//)		佐藤 幸子 (//)	加賀 玉樹 (//)
谷沢 一江 (//)		阿部 満智 (//)	小河内則子 (//)
れんげ会 (//)		大津 道子 (//)	椎名 順子 (//)
小林佐江子 (//)		高島 元子 (//)	湯浅 健 (//)
大蔵万智子 (//)		山内 典子 (//)	荒谷 明 (//)
狩野 和子 (//)		中島 静子 (//)	上原 輝也 (//)
狩野 昇作 (//)		亀山 泰子 (//)	

高田 博行 (練馬区)	安井 憲子 (目黒区)	藤田 玲子 (横浜市)	宇仁田愛子 (伊勢市)
松崎 博善 (//)	田巻 泰子 (//)	嶋 正子 (//)	山口 光夫 (志摩市)
飯田 昌美 (//)	芝 節子 (//)	有働由美子 (//)	京都府
新井 弥生 (//)	福原 和子 (//)	多田寿美子 (//)	伊崎 佳明 (京都市)
藤本久仁子 (文京区)	田所 正子 (//)	白勢 順子 (//)	大阪府
安藤喜代子 (//)	柿沼 恵子 (//)	久持 典子 (//)	永戸 美紀 (吹田市)
村主 敦子 (//)	岡 佐和子 (//)	傾田 幸子 (//)	今村 眸 (//)
山崎みどり (//)	鎌田靖子他一同(//)	関 和子 (//)	兵庫県
上坪 弘美 (//)	山澤百合子 (//)	グループ友 (//)	小副川美樹 (神戸市)
皆川喜代子 (//)	古藤とく子 (//)	小林しめ子 (鎌倉市)	景山佐和子 (//)
浪辺 純子 (//)	深町 陽子 (//)	高島 幸子 (//)	加藤喜代子 (//)
聖心女子学院 (港 区)	校光学園幼稚園田の会 (//)	三神 康子 (//)	小野 裕子 (//)
聖心女子学院みこころ会 (//)	早出 高子 (//)	山内 慶子 (//)	稻生とも子 (//)
聖心女子学院もゆる会	尾本 尚子 (//)	伊藤 恵子 (//)	丸山 勝子 (//)
聖心女子専門学校 (//)	野沢 節子 (//)	高橋多恵子 (//)	山泉 晴代 (//)
聖心会レターレ修道院 (//)	島谷司奈子 (//)	萩原三佐子 (//)	岡本 豊子 (尼崎市)
石毛 丞子 (//)	斉藤 友子 (//)	熊沢 節子 (//)	古沢 律子 (加古川市)
筋内祥周・節子(//)	相馬佐代子 (小平市)	中野 康子 (//)	辻 孝子 (西宮市)
中西 浩司 (//)	堀内 ツル (//)	岡田 邦男 (川崎市)	広島県
原 磯子 (//)	立石・吉野・渡辺 (調布市)	神谷 博子 (相模原市)	井野崎順子 (広島市)
萩野カズ工 (//)	原田 道子 (八王子市)	越島 陽子 (逗子市)	田川 泰資 (//)
畠中レイザ (//)	本橋 栄 (日野市)	中村 由子 (秦野市)	福岡県
永田 典子 (//)	川端 浩子 (町田市)	増田貴代子 (藤沢市)	蓮尾 エリ (福岡市)
黒川 百合 (//)	桑原美樹子 (三鷹市)	加藤 徹 (//)	藤田 千穂 (//)
波多野博子 (//)	浅見 智子 (//)	藤岡 チカ (//)	古賀 徳子 (久留米市)
柳沼 恵子 (//)	松平やすこ (武蔵野市)	津賀 潔子 (//)	徳島県
力石 順子 (//)	中原リザ子・レチ子 (//)	柴田 悦子 (大和市)	吉野町消費者協会会長
河野 昌子 (//)	高橋美己子 (//)	宇都宮遼子 (//)	市川房子 (板野郡)
久能木 光 (//)	芝野 雅一 (八丈島)	宇都宮ゆり江 (//)	
尾関 葉子 (//)	神奈川県	遠藤こども達(横須賀市)	ご協力ありがとうございます
高木 愛子 (//)	金田 淑子 (横浜市)	秋沢 ヒロ (//)	ございました。
和田 令子 (//)	合木 佳子 (//)	諫村 みほ (高座郡)	
西野 直子 (//)	清水 径子 (//)	今井野梨子 (中 郡)	
崎川由美子 (//)	鈴木 博 (//)	長野県	
福島あや子 (//)	佐野 克行 (//)	遠藤 道子 (北安曇郡)	
和田 和 (//)	内藤美代子 (//)	新潟県	
小林 玲子 (//)	高橋 周子 (//)	中林 虎三 (新潟市)	
鈴木 穂子 (//)	御子柴能子 (//)	静岡県	
小森 七郎 (//)	西川 媒子 (//)	平田ひろ子 (三島市)	
山田 順子 (目黒区)	田澤佐智子 (//)	愛知県	
気賀 祥子 (//)	本間恵美子 (//)	宮本 明子 (名古屋市)	
伴内 由美 (//)	真鍋 洋子 (//)	堀田 潤子 (//)	
		伊藤はつ子 (//)	
		鶴永ますみ (豊明市)	
		三重県	

CYRきのう・今日

タイ・カオイダン

1987年8月24日

第1期母親クラス終わる。主に保健衛生を中心にした講義と、教材づくりなど6週18時間。修了者は13名。

9月末

アメリカの民間団体で、社会福祉、保健教育を担当しているIRC(国際救援委員会)の調査で、小学生数が急増していることがわかる。昨年度の24%増の約4110人。1~5学年のうち、1学年が2658人と、65パーセントを占める。

10月23日

23区保育センター閉鎖。

10月25~31日

日本定住面接調査団、アランヤプラテートで、面接調査。49家族193人に面接し、24家族87人を日本への定住候補として持ち帰る。

10月

新たにタイ人スタッフ2名加わる。パニダ・クラナロング(保育センター責任者補佐)、ジャルニー・ソンパット(技術訓練洋裁担当)。

11月9日

第4期母親クラス始まる。新しく料理の実習を加える。



国内

8月25日

訪問ボランティア打合せ。日本に定住しているカンボジア・ベトナム人の子どもの生活状況調査をするため、質問内容等を検討。この

調査は、国内活動の基礎資料とするために行なう。

9月8日

国内プロジェクト打合せ。タイにいるCYRスタッフから提案のあった、タイとの国際交流について。

9月11日、10月12・27日、11月17日

「'88かながわ 市民とアジアをむすぶ国際フォーラム」の定住難民分科会の準備会。このフォーラムは、今年3月19~21日神奈川県で開催される。日本各地で海外協力をすすめている市民・団体のネットワークづくりを目的としている。CYRも、企画準備から参加している。

9月22日

訪問ボランティア打合せ。子どもの生活調査の途中経過、訪問活動の報告。

9月26日

東京YWCA国領センターにて、CYRの活動を紹介。



9月29日

関西の竹の子、会員阪本麻子さんから「ピースボート」参加の報告。

10月13日

国内プロジェクト打合せ。子どもの生活調査を終えての感想。対象は、ベトナム人6世帯、カンボジア人9世帯の計15世帯。定住年数が短い家庭は、生活に追われ、子どものしつけにまで手がまわらないこと、ベトナム人は家庭内ではベトナム語を話すようにしていること、カンボジア料理より、日本の料理を好む子どもが多いこと等が調査でわかる。



善然寺に在るインド人墓

10月24日

神奈川県藤沢市にある善然寺内に在るインドシナの人々の墓が完成。この日、入魂供養式が行なわれ、事務局からも参列。墓地4坪は、同寺の寄贈、建設費用は神奈川県等のいくつかの民間団体、個人からの寄付でまかなわれた。

11月8日

第16回バザー。例年に比べ品物の集まりが悪く、心配したが、収益は1,854,055円とまずまず。カンボジア料理4種は好評で、お昼前には売り切れる。



11月21日

訪問ボランティア打合せ。日本語教師の方を招いて、日本語学習のアドバイスをいただく。

〈編集後記〉

ある団地で、カンボジアの小学生数人の勉強をみている方から、ある日、連絡が入りました。そのうちの一人が、日本人の女の子を連れてきて、「一緒に勉強をみてほしい」と言うので、その子も一緒にみているが、よいだろうか、ということでした。

カンボジアの子のやさしさに感動した話でしたが、同時に、わからない子をそのままにしている今の学校に、疑問を感じないわけにはいきませんでした。(じゅん)